

まぼろしの古代寺院



速報展

発掘された 京都の歴史 2019

向日市文化資料館 8/3 (±) ~ 8/25 (B)

、ふるさとミュージアム 日後 (京都府立丹後郷土資料館) 9/4 承 ~ 9/16 風視

ふるさとミュージアム 山城 (京都府立山城郷土資料館) 9/28世~10/14 月视

主催:京都府教育委員会 / 公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 協賛:向日市文化資料館

展覧会の開催にあたって

本展覧会は、府民の皆さまをはじめ、多くの方々に埋蔵文化財への興味や関心を持っていただき、遺跡や遺物に親しんでいただくことを目的に、「発掘された京都の歴史」として、京都府教育委員会と公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの主催で開催しています。

本年の展覧会では、速報展として昨年度に京都府内で実施された発掘調査の成果を出土遺物や写真パネルなどによって紹介しており、併せて企画展「まぼろしの古代寺院」では、近年の発掘調査で明らかになった京都府内の古代寺院に注目し、古代の仏教の広がりを探る内容となっています。

展示にあたっては、よりわかりやすく、親しみやすくなるように心がけましたので、いにしえの世界をお楽しみください。

むすびにあたり、今回の展覧会に協賛をいただいた向日市文化資料館をはじめ、様々な御協力を賜った各関係機関に対し、深く感謝いたします。

令和元年8月

京都府教育委員会

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

凡例

- 1. 本図録は、「発掘された京都の歴史 2019」(向日市文化資料館: 令和元年 8 月 3 日 (土) \sim 8 月 25 日 (日)、京都府立丹後郷土資料館: 同 9 月 4 日 (水) \sim 同 9 月 16 日 (月・祝)、京都府立山城郷土資料館: 同 9 月 28 日 (土) \sim 同 10 月 14 日 (月・祝) 開催)の展示図録です。
- 2. 展示資料は、京都府教育委員会・公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター及び府内各機関が主に平成30年度に発掘調査や整理作業を行った遺跡・遺物を対象としました。
- 3. 本図録に掲載した資料は展示品のすべてではありません。また、展示の都合により員数等が異なる場合があります。
- 4. 本展覧会にかかる資料調査、図録作成、展示資料及び写真等の借用にあたっては、次の機関からご協力いただきました。
 - (順不同・敬称略) 京丹後市教育委員会、宮津市教育委員会、綾部市教育委員会、亀岡市教育委員会、京都市、長岡京市教育委員会、向日市教育委員会、城陽市教育委員会、木津川市教育委員会、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、京都市考古資料館、公益財団法人向日市埋蔵文化財センター、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター
- 5. 本図録の掲載写真・図は、主催者撮影のもののほかは、上記の各教育委員会及び各所蔵機関から提供を受けたものです。



発掘された京都の歴史

2019

縄文・弥生時代

【小樋尻遺跡】

城陽市富野小樋尻

縄文時代

当調査研究センター調査

小樋尻遺跡は、木津川によって形成された沖 積平野に広がる遺跡です。

調査では、中世の島畑、掘立柱建物や古墳時代の溝、縄文時代の落ち込みなどが見つかりました。

出土遺物には縄文時代から中世までの土器などがありますが、ここでは縄文時代晩期の土器、石器を紹介しています。



出土した石斧・石鏃・剝片

なくいせき 【奈具遺跡】 京丹後市弥栄町溝谷 弥生時代

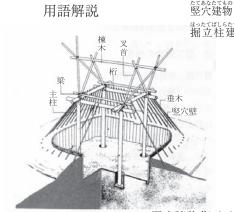
京都府教育委員会調査

奈具遺跡は、竹野川に面する丘陵上に位置します。調査では、丘陵斜面で弥生時代中期から後期の土器や石器が大量に見つかりました。

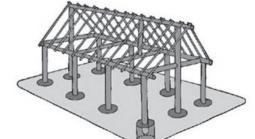
せきな いしのみ くだたま 石斧や石鑿は、管玉に使用される軟質の緑 となくぎょうかいがん 色 凝灰岩で造られており、とても珍しいものです。



出土した石器類と水晶片

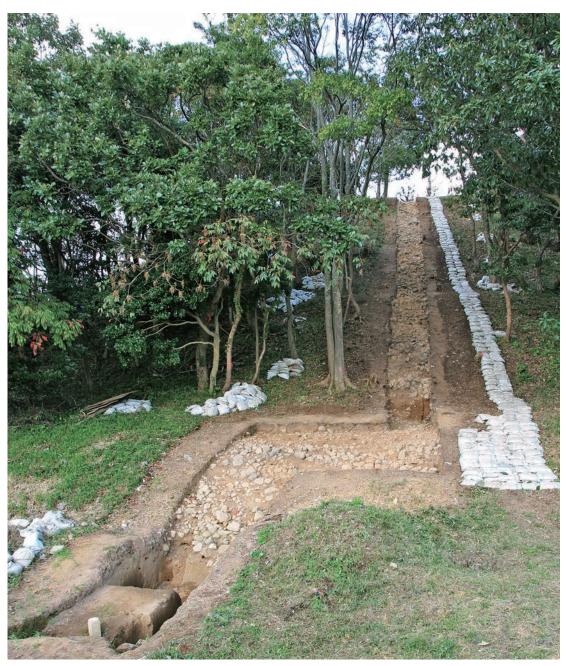


竪穴建物復元イラスト 『発掘調査の手引き』より抜粋



地面を掘り下げ、住居の床の部分を地表面より低くした、半地下式の住居。 地面に穴を掘り礎石などを用いず、そのまま柱を立て地面を底床とした建物。

掘立柱建物復元イラスト





後円部の墳頂部から裾まで良好に残っていた葺石(南西から)

史跡銚子山古墳は、福田川河口部を見下ろす台地上に築かれた前方後円墳です。4世紀末から5 世紀前半頃に築かれた日本海側で最も大きな古墳で、墳丘の長さは約 198m です。この古墳に葬 られていた人物は、ヤマト王権と深い関わりを持ち、日本海を通じて活躍した有力者と考えられ ています。

今回、後円部において、初めて大規模な調査を行いました。調査の結果、墳丘の頂部から裾ま で葺石が良く残っていることがわかりました。墳丘斜面の途中にある平坦面には細かな石が敷き 詰められ、埴輪列が見つかっています。

※葺石:古墳の墳丘斜面に貼り付けられた石



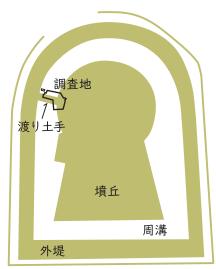
後円部墳丘裾と渡り土手(北西から)

史跡久津川車塚古墳は、木津川に流れ込む 大谷川の扇状地上に立地する前方後円墳です。 5世紀前半に築かれた山城地域最大の古墳で、 境丘の長さは約 180m、周りを取りまく周濠な どを含めた全長は約272mとなります。

調査では、周濠を渡るために造られた渡り 土手の規模と構造を確認しました。土手は地 山を削った後に盛り土をして造られています。 また、土手の上には5cm 大の石が敷き詰めら れ、両斜面には葺石がありました。

出土遺物には墳丘や外堤上面、土手などから 転落したと考えられる円筒埴輪や朝顔形埴輪、 水鳥形埴輪があります。

渡り土手の規模や構造、後円部と外堤に接 続する状況が明らかになった貴重な事例とな りました。



今回の調査地



芝山古墳群は、城陽市東部の丘陵上に位置します。古墳の立地や形から大きく2群に分かれます。1群は方墳が主体で、丘陵の尾根上に分布します。古墳が造られた時期は古墳時代前期末から中期です。もう1群は小型の円墳が主体で、丘陵の緩やかな斜面に分布します。同じく時期は古墳時代中期末から古墳時代後期末です。

そのうち新たに見つかった I - 17 号墳は、直径が 9.5 mの円墳です。古墳の中央から、地面を掘りくぼめて木棺を納めた戦力を設めて木棺を納めた戦力を設めた。埋葬施設が見つかりました。埋葬施設からは、須恵器や鉄製の鏃が副葬された当時の状態で出土しました。このような状況から、当時の葬送儀礼のようすを考える上で重要な発見となりました。

※須恵器:古墳時代の後半から日本で製作された陶質の土器。成形にロクロを用い、登窯で1000℃以上の還元状態で灰色に焼きます。



芝山古墳群 I - 17 号墳の墳丘



埋葬当時の状態で副葬品が見つかりました。

【芝ヶ原遺跡】

城陽市久世、寺田 古墳時代後期

城陽市教育委員会調査



礫敷 (東から)

※土師器:古墳時代から長く使われている素焼きの土器。

芝ヶ原遺跡は、大谷川の扇状地の南側に 東西に延びる丘陵上に位置します。

調査では、礫敷が見つかり、その上面で 須恵器、土師器、耳環 (耳飾り)、鉄製品 などが出土しました。

墳丘や埋葬施設の詳細な構造はわかりませんが、礫敷の周囲に石を据えた痕跡がないことから、礫敷の上に直接木棺を置いた埋葬施設と推定されます。礫敷の東側と西側で耳環が2個ずつ出土していることから、埋葬されたのは2人と考えられます。

この地域のお墓のようすを考える上で重 要な成果といえます。



阿良須遺跡と由良川(北東から)



阿良須遺跡出土土器

阿良須遺跡は、由良川が形成した 微高地上に立地しています。

調査では、由良川の旧流路から飛 鳥時代の土器がまとまって出土しま した。これらの土器は岸辺にまとまっ て置かれていたことから、水辺で祭 祀が行われたと考えられます。

また、奈良・平安時代に洪水が押 し寄せた痕跡も見つかっており、古 くから洪水が起きていたことがわか りました。



竪穴建物 (東から)

調査地は、長岡京跡右京六条一坊九町にあたり、神足遺跡や開田古墳群と重なっています。 調査では、長岡京期の掘立柱建物のほか、開田古墳群東羅支群8号墳の周溝や飛鳥時代の 竪穴建物が見つかりました。飛鳥時代の竪穴建物は合わせて3基見つかりました。いずれの建 物も北辺の中央に造り付けのカマドがあります。床面には屋根を支える柱の痕跡はありませんでした。

建物の1つからは、食器や調理具として使用した須恵器や土師器のほか、鉄製紡錘車(糸を紡ぐための道具)が出土しており、当時の人々の暮らしぶりを知ることができます。

(女布遺跡)

京丹後市久美浜町女布 弥生時代~平安時代

京都府教育委員会調査

女布遺跡は京都府の北西端、久美浜湾にそそぐ佐濃谷川右 岸の扇状地に位置します。

調査では、奈良時代の流路が見つかり、流路の中から土師器や須恵器、土馬(土で作った馬)などが出土しました。 土馬は、雨乞いなどの儀式に使用されたと考えられています。



土馬の頭部

恭仁宮は、聖武天皇が天平12 (740) 年に へいじょうきょう 平城京から遷都された都です。都の造営は 短期間で中止になりましたが、国分寺・国分 に じこんりゅうみことのり こんでんえいねんしざいほう 尼寺建立の 詔 や墾田永年私財法など、当時の 重要な施策が行われました。

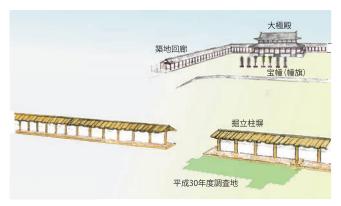
調査では、約3m(10尺)間隔で東西に 並ぶ柱穴列を確認しました。この柱穴列は、 大極殿院の南面を区画する掘立柱塀と考えら れ、従来の想定よりも南側に位置します。また、 大極殿院南門に相当する柱穴も見つかってい ます。

古代の宮では、大極殿院の南面区画施設は 重要な施設であることから築地回廊であるこ とが多いのですが、恭仁宮では簡素な掘立柱 塀だったようです。



奈良時代

大極殿院の南辺とされる掘立柱塀



大極殿院の南辺の復元イメージ図

美濃山遺跡】

八幡市美濃山出島

飛鳥時代~奈良時代

当調査研究センター調査





美濃山廃寺のひさご形土製品

調査地の全景(北西から)

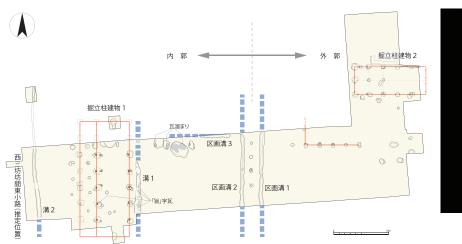
美濃山遺跡は、京都盆地南西部の大阪府との境界にある丘陵上に立地します。

調査では、飛鳥時代から奈良時代の掘立柱建物27棟や焼土坑、木炭窯などを確認しました。付 近では鉄製品の生産をするときに出る鍛冶滓が出土しました。また、須恵器や土師器、土馬などの ほか、瓦片・ひさご形土製品など美濃山廃寺と関係するものが出土しました。

美濃山廃寺との関わりが深い工人達が住んでいたのでしょう。



調査地全景(西から)





「旨」刻印瓦

見つかった建物の配置図

調査地は、長岡京跡右京六条三坊三町の南西部にあたります。調査では、大型の掘立柱建物とそ れに付属する建物、柵、区画溝などが見つかりました。建物の配置などから2町以上の規模の宅地 である可能性が高いことがわかりました。大型の掘立柱建物は、桁行7間(21m)、梁行2間(9m) の南北方向の建物で、長岡京跡で見つかっている建物跡では最大級の規模のものです。宅地は、区 画溝と塀により大型建物が中心となる内郭と、その他の建物が配置される外郭に分けられます。

出土した遺物には瓦が多く、東院や諸院などの限られた施設で使用された、勅旨所の「旨」の字 が刻印された瓦が多数出土しています。長岡京期後半の重要施設である可能性が高く、長岡京にお ける宅地利用を考える上で貴重な資料です。



東一坊大路西側溝全景(北から)

調査地は、長岡宮の東端にあたります。調 査の結果、東一坊大路の西側溝を確認しました。

溝は幅約2m、深さ30cmで、多量の土器や 炎灰岩の切石などが出土しました。

出土した遺物には、須恵器や土師器、墨書 土器、円面視などのほか、長岡京では出土例 が少ない須恵器の注口付鉢があります。これ らは周辺の役所で使っていたもので、当時の ようすがうかがえます。

宮津市府中小松・中野 奈良時代~平安時代

宮津市教育委員会調査

安国寺遺跡は、宮津湾沿岸部の扇状地に立地します。 遺跡の周辺には、史跡丹後国分寺跡や丹後国一宮である 籠神社などが分布し、古代丹後国の中心地と考えられてい ます。

調査では、奈良時代に発行された和同開珎・萬年通宝・ 神功開宝が合わせて31枚、紐に通した状態で出土しました。

丹後地域でこれほどの枚数が一度に出土し たのは初めてです。これらの銅銭がセット で出土する例は長岡京が造られた時期にみ られます。



▲銅銭の出土状況

◀見つかった古代の銅銭 (和同開珎:左、萬年通宝:上、 神功開宝:右)

【平安京右京七条一坊十二町跡】 京都市下京区西七条北東野町

平安時代前期~中期 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査



調査地全景(西から)

調査地は、平安京の右京七条一坊十二町の東 部にあたり、周辺には西市や西鴻臚館の推定地 があります。

調査の結果、平安時代前期から中期にかけて の掘立柱建物や井戸、溝、土坑のほか緑釉陶器

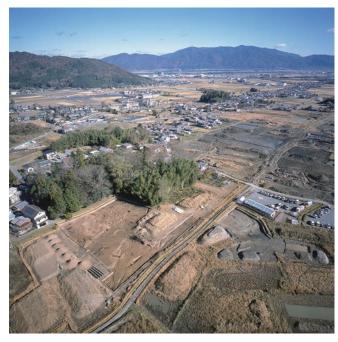
> の皿を埋納した地鎮跡が見つか りました。

西市付近の当時の宅地利用の ようすが明らかになりました。

◀地鎮跡

佐伯遺跡は、亀岡盆地西端の平野に広がる 遺跡です。これまでの調査で、飛鳥時代から 平安時代の掘立柱建物や土坑などが見つかり ました。

調査で見つかった溝の1つから、木簡や墨 書土器など、多くの文字資料が出土しました。 木簡には「一件益継」と人名が書かれたもの があります。また、墨書土器には「西家」「田 屋」など建物の性格や機能を想定させる字句 が書かれています。そのほか下駄や皿などの 多量の木製品や各地から運ばれた製塩土器、 ワォ、ロックヒック。 緑釉陶器なども出土しており、調査地付近に 公的な機能を帯びた施設があったことがわか りました。



調査地近景(南西から)









墨書土器

うめがいい せき

与謝野町字三河内小字梅谷 平安時代~鎌倉時代

与謝野町教育委員会調査

梅谷遺跡は、野田川の中流域左岸に広がる 遺跡です。

調査では、平安時代末から鎌倉時代の土坑 や流路、そして多数の柱穴が見つかりました。

柱穴の多くに柱材や柱を据えた礎石が残っ ていました。また、土師器の皿が4、5枚埋

められた柱穴もありました。植物の種子 が一緒に出土していることから、柱を抜 き取った後に、お供え物とともに土器を 埋納したと考えられます。



調査地全景(南から)

|土器が埋納された柱穴

スタス まんじ (特別史跡・特別名勝 鹿苑寺 (金閣寺) 庭園)

京都市北区金閣寺町 室町時代 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査

鹿苑寺(金閣寺)は室町幕府第3代将軍 ®Lかがよしみつ 足利義満によって造営された北山殿に始まり

調査は、舎利殿(金閣)と鏡湖池の南側に 広がる池状の地形(南池跡)のようすを明ら かにするために実施したものです。

調査の結果、南池は室町時代中期の北山殿 の造営とともに造られたことがわかりました。 周辺には堤や島状の高まり、礎石建物なども ありました。

池底には水が張られた形跡がないことなど から、未完成の庭園であったのかもしれません。



鏡湖池の南側で見つかった礎石建物(南から)

^{ふしみじょうあと} 【伏見城跡】

京都市伏見区桃山町 桃山時代~江戸時代

京都市調査

伏見城跡は、伏見城とその城下町を含めた 広範囲におよぶ遺跡です。

調査地は桃山丘陵の西側斜面に位置し、江 戸時代初め頃の伏見城付近のようすを描い た『伏見御城槨并屋敷取之絵図』には「松平 下野守」の屋敷地と記されており、西隣りに は徳川家康の屋敷がありました。

調査では、伏見城の城下町が造営された頃 (15世紀末~16世紀初頭)の石垣・石畳・階 段が見つかりました。これらは、屋敷の西側 の石垣と入口である階段と考えられます。階 段は、8段分が見つかりました。

伏見城跡で階段が発見された例は少なく、 貴重な事例といえます。



見つかった階段と石畳(東から)



企画展

まぼろしの古代寺院



ここでは、最新の発掘調査成果を中心に、 現在はその姿を見ることのできないまぽろし の古代寺院を紹介し、これらを通してその地 域での寺院のあり方を見ていきます。

※山背国は平安京に遷都後、山城国に改められました。



京都府内の古代寺院



京都府最古の古代寺院:史跡高麗寺跡

木津川市山城町上狛 飛鳥時代~平安時代

史跡高麗寺跡は、木津川が京都盆地に入って大きく北へ流れを変える地点の河岸段丘上に立地する京都府最古の古代寺院です。これまでの発掘調査で塔、金堂、講堂などの跡が確認されており、7世紀初頭に造営が開始され、7世紀後半には伽藍が整備されたと考えられています。

現在、史跡整備調査が進められており、整備に伴う今回の調査では、金堂跡の瓦積基壇と石敷を確認しました。出土遺物には瓦のほか菱形石製品があります。菱形石製品は、これまでに出土したものと合わせて8点となりますが、その用途は不明です。



▲出土した菱形石製品 (1辺6cm/蛇紋岩製)

金堂跡の瓦積基壇(北から)▶





丹後国最古・府内最北の古代寺院: 俵野廃寺

京丹後市網野町俵野 飛鳥時代~平安時代

振野廃寺は、7世紀後半(白鳳時代)にさかのぼる丹後国で最古の寺院跡です。1922年の河川改修の時に発見され、幹先を飾る軒丸瓦・軒平瓦や鬼瓦、塔の心礎と思われる礎石が出土しています。2006~2008年の発掘調査で瓦溜りや礫敷が見つかりましたが、伽藍配置等は不明です。出土した軒丸瓦の文様には、都の瓦とよく似たものと蓮の花の文様を簡略化したものがあります。後者は地元の工人が笵を制作したと思われ、都を離れた土地での寺造りの苦労がしのばれます。



出土したいろいろな文様の瓦

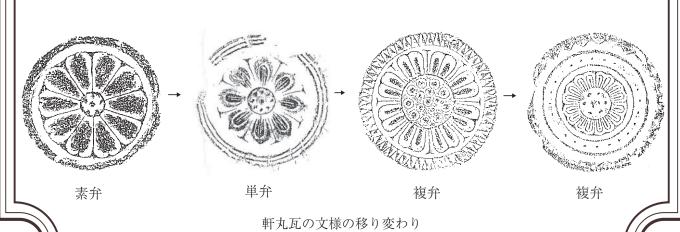
...コラム...

瓦を読む

軒丸瓦の文様の主体は、 蓮の花をモチーフにした「蓮華文」です。「蓮華文」の「花弁」の形状には「素弁」、「単弁」、「複弁」の3種類があり、「素弁」(飛鳥時代) → 「単弁」(白鳳時代) → 「複弁」(白鳳~奈良時代)の順序で出現したと考えられています。

また、瓦の文様の変化と製作技術に注目すると、同じ文様や技術を共有するグループを抽出することができ、どのような文様のグループが日本のどこへ広がったのか追跡することができます。 このように軒瓦の文様を読み解くことは、軒瓦の年代や広がり、すなわち寺院や仏教の広がりを知る上で重要な作業となります。

※飛鳥時代:7世紀前半、白鳳時代:7世紀中頃~後半、奈良時代:8世紀初頭~後半





亀岡市薭田野町佐伯 奈良時代~平安時代

佐伯遺跡では、寺院の存在をうかがわせる 瓦溜りと掘立柱塀が見つかりました。古代寺院 が多く分布する亀岡盆地において、交通の要衝 でありながら、これまで寺院が存在しないと考 えられていた薭田野町内にも存在していた可能 性が高まりました。そうであれば丹波国桑田郡 では郷ごとに古代寺院があったことになります。



掘立柱塀 (南から)



瓦溜り (南から)



佐伯遺跡の軒平瓦(綾部市綾中廃寺と同笵)



亀岡盆地の古代寺院分布図





佐伯遺跡で出土した軒丸瓦(上・下)





佐伯遺跡の瓦塔

瓦塔は、仏塔を模倣した焼物の塔です。佐伯遺跡では破片が1点出土しました。瓦塔の表側には竹管状の工具で瓦葺きの屋根が表現されています。粘土が剝離していますが、降り棟と考えられる痕もあります。裏側は、粘土をつまんで筋状にし、扇垂木を表現しています。1点のみですが、瓦塔の出土は佐伯遺跡を寺院と考える根拠の1つです。

京都府内での瓦塔の出土例は、京都市小倉町別当町遺跡、 木津川市瀬後谷瓦窯跡に次いで3例目です。全国で約320 例出土したうちの9割が関東、東海地方の例で、近畿地方 では20例ほどと類例が少なく貴重な資料といえます。



京都市小倉町別当町遺跡の瓦塔



木津川市瀬後谷瓦窯跡の瓦塔



丹波国の古代寺院②:綾中廃寺

佐伯遺跡との関係は!?

綾部市綾中町 飛鳥時代~平安時代



綾中廃寺の瓦積基壇跡



綾中廃寺の軒丸瓦(佐伯遺跡と同笵)

綾中廃寺は、7世紀後半に創建された古代寺院です。丹波国何鹿郡の郡の役所に付属する寺院と考えられています。これまでの調査で、珍しい形の瓦積基壇や、掘立柱建物が見つかっています。佐伯遺跡と同じ笵を使用した軒瓦が出土していることから、2つの寺院の造営に関わった氏族の間に何らかの強いつながりがあったと想定されます。



軒丸瓦や軒平瓦の文様は、型に粘土を詰めて作ります。これによって同じ文様の瓦を大量生産することができます。この型のことを「笵」といい、同じ「笵」で作った瓦を「同笵瓦」といいます。笵は木製なので、使っているうちに傷ができます。これを「笵傷」といい、この傷は瓦の文様に写し出されることから、「同笵瓦」の証拠となります。

丹波国の古代寺院③:府史跡周山廃寺跡

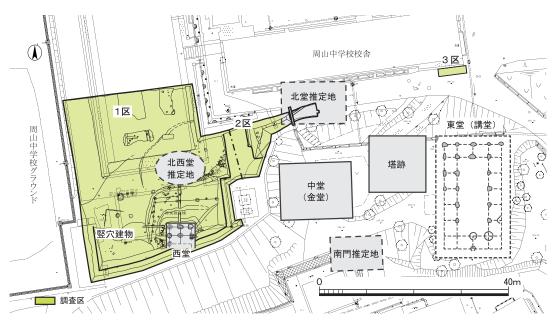
京都市京北町 飛鳥時代~平安時代

府史跡周山廃寺跡は、7世紀後半に創建された古代寺院です。これまでの調査で、塔跡のほか東堂や西堂が見つかっています。調査では、西堂の北側に新たな平坦面と瓦溜りが見つかり、瓦葺建物(北西堂推定地)が存在していた可能性が出てきました。

7世紀後半に創建された寺院でこのように多くの建物が確認された例は少な く、各地の寺院の様相を知る上で重要な遺跡です。



西堂跡 (北西から)



伽藍配置と今回の調査地

展 示 遺 跡 ・遺 物 関 係 年 表

西 暦	時代	展示遺跡	できごと	600			
1900	近 代	音羽・五条坂窯跡 (京都市)	1867年 大政奉還	500	後期	芝ヶ原遺跡 (城陽市) 芝山古墳群 (城陽市)	横穴式石室の普及
1800 1700 1600	近 江戸時代世 安土桃山時代 戦 国時代	伏見城跡 (京都市)	1603年 徳川家康 征夷大将軍となる 1582年 本能寺の変 1467年 応仁・	400	中 期 古墳	史跡久津川車塚古墳 (城陽市) 史跡銚子山古墳	
1400	室町時代南北朝時代中	特別史跡・特別名勝 鹿苑寺(金鵬)庭園 (京都市) 犬飼遺跡 (亀岡市)	文明の乱 1392年 南北朝が 統一される 1338年 足利尊氏 征夷大将軍となる		(代)	(京丹後市)	
1300 1200	鎌倉時代世	梅谷遺跡 (与謝野町)春日部遺跡 (亀岡市)	1185年 諸国に守護・ 地頭をおく	200	後期		巨大古墳が造られる 239年 卑弥呼、 魏に朝貢
1100 1000 900	平安時代		1086年 白河上皇 院政をひく 1016年 藤原道長 摂政となる	100 A.D.1	弥 生 時 中 期 代	奈具遺跡 (京丹後市)	57年 倭奴国王、 後漢に遣使、 金印を受ける
800		平安京跡 (京都市) 安国寺遺跡 (宮津市) 長岡京跡 (長岡京市) 長岡宮跡 (向日市)	794年 平安京遷都 784年 長岡京遷都	B.C.400	前期	小樋尻遺跡 (城陽市)	大規模なムラの誕生 稲作が定着
	奈良時代	佐伯遺跡 (亀岡市) 美濃山遺跡 (八幡市) 女布遺跡 (京丹後市) 史跡恭仁宮跡 (木津川市)	745年 平城京還都 740年 恭仁京遷都 710年 平城京遷都	B.C.1000	後 期 縄 文 中 期		
700	代	(表野廃寺 (綾部市) 史跡久世廃寺跡 (城陽市) 史跡樫原廃寺跡 (京都市) 観音芝廃寺 (亀岡市)	A PAIR	B.C.3000 B.C.5000	代前期		列島の温暖化が進む 土器の出現、集落の
	飛鳥時代	綾中廃寺 (綾部市) 府史跡周山廃寺跡 史跡高麗寺跡(京都市) (木津川市) 阿良須遺跡(福知山市) 神足遺跡(長岡京市)	645年 乙巳の変 (大化の改新)	B.C.11000	旧石器時代(中期)		定着が始まる 列島が寒冷気候に おおわれる

展 示 遺 跡 位 置 図



「発掘された京都の歴史 2019 まぼろしの古代寺院」 展示図録

発行日 令和元年8月3日



編集・発行 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 〒 617-0002 向日市寺戸町南垣内 40-3 TEL.075-933-3887 FAX.075-922-1189 ホームページアドレス http://kyotofu-maibun.or.jp 印刷 三星商事印刷株式会社